

[成果情報名] 長崎県型イチゴ高設栽培システムにおけるイチゴ後作チンゲンサイの栽培法

[要約]長崎県型イチゴ高設栽培システムで夏場の施設未利用期間を利用した後作品目として、チンゲンサイを導入する場合、不耕起で株間20cm黒ポリマルチで被覆し栽培すると、定植から35日程度でL級が収穫できる。

[キーワード]チンゲンサイ、イチゴ、高設栽培、イチゴ後作

[担当]総合農林試験場・作物園芸部・野菜科

[連絡先]電話 0957-26-3330、電子メール matuken@pref.nagasaki.lg.jp

[区分]野菜

[分類]指導

[背景・ねらい]

県内の野菜産地生産振興には、既存品目の生産向上や高品質化技術とともに、消費の多様化に対応した、新たな品目・作型開発が必要である。

長崎県の主力品目であるイチゴは、近年価格低迷などにより収益低下が見られ、一部地床栽培農家では所得向上のため、他品目を導入した事例が出てきているが、高設栽培ではそのような活用がほとんどなされていない。そこで、イチゴ施設未利用期間の有効活用による所得向上を目的に、夏場の栽培が難しく、全国的に生産量が減少する葉菜類で、短期間で栽培ができ軽量のチンゲンサイに着目し、長崎県型イチゴ高設栽培システムでの栽培法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 長崎県型イチゴ高設栽培後作におけるチンゲンサイの生育は、定植後約3週間が旺盛で、その後緩やかとなり、35日程度で出荷規格の生育量になる（図1，図4）。
2. チンゲンサイの定植床は、イチゴの地上部を除去しただけの不耕起栽培が、地下部まで取り除いた場合の耕起栽培より生育及び収量は優る（図1，図2）。
3. チンゲンサイは、黒ポリマルチや太陽シートなど通気性がない資材を用いたマルチ栽培が収量が高い（図3）。
4. チンゲンサイは、株間20cmの黒ポリマルチ栽培が商品性の高いL級中心の生産ができる。また、株間を15cmにし、黒ポリマルチで被覆して栽培すると、高収量が得られるが、M級中心の生産となる（図4，図5）。

[成果の活用面・留意点]

1. 長崎県型イチゴ高設栽培システムの施設未利用期間中の作目導入に活用する。
2. 新しいベンチ培土では、石灰欠乏症が発生しやすい。
3. 本試験は、定植前のEC 0.42mS/cmの長崎県型イチゴ高設栽培システムに定植し、生育状況によりジャンプ錠、液肥を施用した。

[具体的データ]

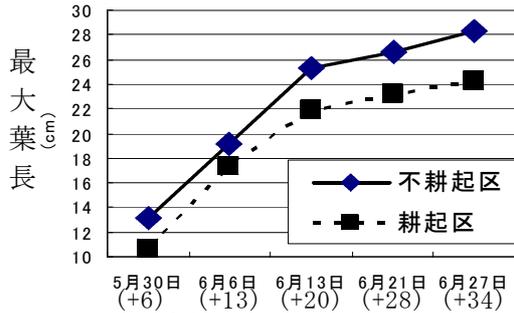


図1 定植後日数と最大葉長
注) ()内は定植後日数

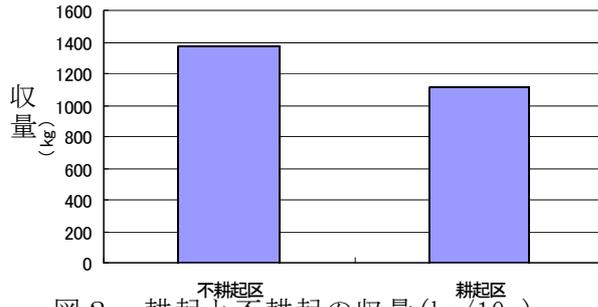


図2 耕起と不耕起の収量(kg/10a)

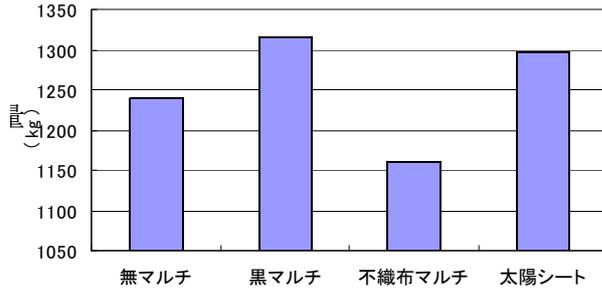
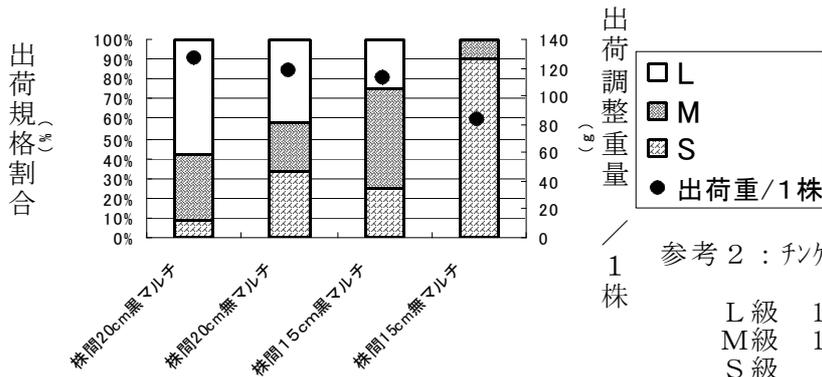


図3 マルチの違いによる収量(kg/10a)

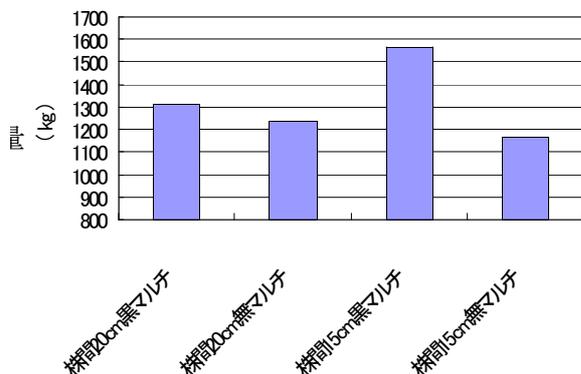
参考1：耕種概要

品種：四季三味（八江農芸）
 播種：4月24日
 定植：5月24日
 収穫：6月27日
 栽培様式：
 天井ビニルの上に遮光資材（ダイオミラー）を被覆した雨よけ栽培。防虫網設置
 栽植密度：条間15cm株間20cm(10,500株/10株間15cm(14,000株/10



株間の違い・マルチの有無による出荷規格割合および1株当たりの出荷調整重量

参考2：チゲンサイの出荷規格
 市場評価
 L級 120g以上 高
 M級 100g以上
 S級 80g以上 低



株間の違い・マルチの有無による収量(kg/10a)

参考3：チゲンサイの市場価格
 (平成) 15年 16年 17年 18年
 202.1 363.6 343.2 386.8(円/kg)
 注)東京大田市場6-8月中値平均価格

[その他]

研究課題名：地域ブランドに向けた野菜の生産技術確立
 予算区分：県単
 研究期間：2006～2009年度
 研究担当者：松尾憲一